

本ディスクロージャー誌の構成

みずほフィナンシャルグループの2002年版(平成14年3月期)のディスクロージャー誌は、2分冊で構成されています。

1分冊には、みずほホールディングスと中核4社(みずほ銀行、みずほコーポレート銀行、みずほ証券、みずほ信託銀行)の経営戦略・事業戦略・経営体制・内部管理体制およびみずほホールディングス、みずほ銀行、みずほコーポレート銀行のコーポレートデータを掲載しています。

2分冊には、平成14年3月期のみずほホールディングスと3行(第一勧業銀行、富士銀行、日本興業銀行)の業績と財務の状況・子会社関連会社およびみずほ証券とみずほ信託銀行の財務諸表を掲載しています。

なお、本ディスクロージャー誌は、銀行法第52条の29(みずほホールディングス)および銀行法第21条(みずほ銀行、みずほコーポレート銀行および3行)に基づいて作成したものです。

また、みずほ証券、みずほ信託銀行については、法定のディスクロージャー誌を別途作成しています。

みずほフィナンシャルグループの概要

みずほフィナンシャルグループのビジネスモデル

● 顧客セグメント別・機能別の法的分社経営のスタート

みずほフィナンシャルグループは、平成14年4月1日に、持株会社であるみずほホールディングスのもとで、第一勧業銀行、富士銀行および日本興業銀行の3行を、会社分割および合併により、個人、国内一般事業法人および地方公共団体を主要なお客さまとするみずほ銀行と、大企業・金融法人およびそのグループ会社、公団・事業団ならびに海外の企業を主要なお客さまとするみずほコーポレート銀行に統合・再編しました。また、みずほ証券、みずほ信託銀行についても、会社分割により、みずほホールディングスの直接の子会社とし、これら中核4社を柱とする新たな体制をスタートさせました。

当グループは、グループ各社が高い専門性を一段と向上させ、高付加価値の金融サービスを提供するとともに、相互の連携を強化することにより、お客さまの多様なニーズにより的確・迅速にお応えする総合金融グループを目指し、顧客セグメント別・機能別の法的分社経営を行うこととしました。また、これにより、事業の範囲と規模を望ましいものとする経営形態を実現し、経済構造や金融構造、市場構造等の経営環境の変化に対し柔軟かつ機動的に対処していきます。